

議 事 録

| | |
|-----|------------------------------|
| 日 時 | 2023年3月20日（火） 15：00～16：00 |
| 作成者 | 鈴木 達也 |
| 場 所 | 基礎医学実習室 |

| | | |
|--------------|----------------------|---|
| 会議名 | 2022年度 第2回学校関係者評価委員会 | |
| 出席者 (敬称略) | 外部委員 | 田中匠作（あい介護老人保健施設 作業療法士主任） 横山浩康（熊谷総合病院 リハビリテーション科 課長） 下河辺雅也（山田記念病院 リハビリテーション科 技師長） 関 雅彦（板橋ロイヤルケアセンター リハビリテーション科 科長） （欠席者） 三沢幸史（東京都作業療法士協会 副会長） 大塚俊平（錦クリニック 作業療法士） |
| | 学校 | 草野修輔（学校長） 林正志（副校長） 石垣英司（教務部長） 中嶋裕之（事務部長） 阿部靖（PT統括学科長） 深瀬勝久（OT統括学科長） 土手延恭（PT夜間部学科長） 手塚雅之（OT昼間部学科長） 松生容一（OT夜間部学科長） 鈴木達也（学務課課長代理） 樋口豊朗（教務課課長代理） |
| | 欠 席 | 黒木光（PT昼間部学科長） |
| 配布資料 | ・議事 | |

議 事

1. 学校長挨拶

冒頭に、草野校長より挨拶があった。

2. 令和4年度の取り組み計画の進捗状況報告

(1) 学生受け入れ状況と今後の課題

①令和4年度の定員充足状況報告

理学療法学科昼間部は定員を充足しているものの、他学科については未充足となっている。

(振り返り)

- ・コロナ禍で高校生進学活動が大きく前倒ししている。
- ・年内に進学先を決定する傾向が加速している。
- ・私立大学でも同様の傾向がみられる。

(今後の募集)

- ・昼間部：9月までの接触者の歩留まり率向上
- ・夜間部：7月以降の接触者の歩留まり率向上

(令和6年度募集の方向性)

昼間部

- ・ 4月～6月の接触者歩留まり率を最大化
- ・ 来校者出願率の向上
- ・ 1回の来校で決断させる情報提供
- ・ 来校者の選択基準確認と、基準にあった本校付加価値の提示

(夜間部)

- ・ 7月以降の接触者歩留まり率の最大化
- ・ 既卒者が踏み出せないネガティブ要員の炙り出し
- ・ 打ち手の構築と周知（学費）

②作業療法学科の差別化進捗状況報告

- ・ 作業療法自体の魅力を伝える事と、学校の作業療法学科の魅力を伝えることを中心に広報メンバーで検討している。
 - ・ 本校の取り組みとして、心のリハビリ、身体、高齢者、地域リハ、小児など、それぞれの分野に対してしっかりとした教育を行っている。
 - ・ 大学がある中で、専門学校を選んでいただくことの明確なメリットの提示、本校を選んでいただくためのメリットの提示をしっかり行っていくことが重要と考える。

(質疑応答・意見交換)

専門学校に望む教育

- ・ イベント時にどのようなアンケートを取っているか
 - アンケートは取っているが、分析が不十分である。今後、分析を行っていく。
- ・ 作業療法学科の学生が何に興味を持って入学するのか
 - 各領域に興味を持って入学する学生もいるが、昼間部と夜間部の学生とで差が出ている。
 - 家族に作業療法を受けた方が志望するケースがある。
 - 説明会のアンケートの事由記載には、「作業療法について理解した。理学療法と作業療法の違いを知ることが出来た」という回答が多い。リハビリ全体の中で作業療法なのか理学療法なのか理解せず、イベントに参加して理解するケースがある。
 - 明確に作業療法なのかがよいか、教員が期待しているような、日常生活に関わるとか作業療法の仕事を理解した上で入学する学生は少ない。

・作業療法学科の募集で苦慮されているように見受けるが、現場としては作業療法士が不足している。令和6年度の診療報酬改定により、認知症への対応が明確に打ち出されている。今後、専門認知症の分野で作業療法士が重宝される。そのような現状を志望者に伝えられるような事が出来ればよいのでは。

・リハビリ=理学療法のイメージが強い。作業療法の魅力を十分に伝えられていないのではないかと。学生が実習に来た時には、作業療法の良さを理解している学生は少ない。作業療法のイメージが伝えにくいのではと思う。

在校生の意見に耳を傾けながら、作業療法学科の特徴の打ち出し方を検討したい。

(2) 中退率状況と低減に向けた取り組み

①令和4年度の退学率状況最終見通し状況

令和4年度の退学率の目標を5%以下に設定している。中退者の特徴として、2月に退学するケースが多い。学年別でみると、1年次の退学者が多くなっている。

退学理由

- ・学力不振、病気（精神面）、進路変更等 などによる退学が多い

これを踏まえ、1年生に特化した打ち手を計画している。

②1年次指導の見直し

- ・1年生に対し、初年次教育や上位面の教育を行う。来年度は教務委員会を中心に新たな取り組みを加える 予定。
- ・学習アプリケーション（UMU）を導入し、学習支援アプリとして使用する。
- ・1年生の学習習慣を形成するため、授業終了後に学習アプリケーションにて復習問題を実施する。
- ・学力低下、学力不足による進路変更に対応するため、生理学・運動・解剖等について外部講師に依頼し、講義をお願いする予定。
- ・学習習慣と基礎医学に焦点をあて取り組む。

3. 令和5年度学校関係者評価委員会運営について

事務局より、令和5年度の学校関係者評価委員の運営について説明があった。